

第16回 世界代表司教会議（シノドス）に向けて 教区開会宣言 司教メッセージ
シノドス教区開会ミサの日 2021年10月17日

(1) はじめに

世界代表司教会議（シノドス）が行われます。2023年10月にバチカンにて開催予定
2021年10月9日~10日 教皇の開幕宣言
10月17日・各地方教会（教区）での シノドス開会宣言ミサ
以後・・・2年をかけた準備 が始まります。

(2) 概要

- ①テーマ・・・「ともに歩むため 交わり 参加 そして宣教」
- ②ねらい・・・社会の福音化に向かう「**教会の在り方**」を再確認するねらい。
*解決すべき様々な緊急課題（平和問題 命を守る 環境問題 経済問題 人権問題・・・）
を抱える現代社会の中で、**教会がどのような姿勢**をもって・福音宣教にあたるのか、**教会の姿勢**（教会の在り方）を問う。
- ③基本姿勢・・・これは代表司教たちの「イベント」ではなく「神の民」の固有の役割（召命）を通して、課題を分かち合い **深め合うプロセス**を大切に福音宣教する教会になる。
・バチカンと地方教会との関りをたいせつにし、信徒の方々の参加、その声に耳を傾けることを大切にします。
- ④（バチカンからの）「シノドス準備文書」の前提となっていること。
・ **第二バチカン公会議による教会理解** = 「交わり・証しする教会」が前提。
・「**教会**」とは「**神の民**」である。司祭 修道者 信徒 **固有の召命の交わり**と協働。
教会法 208 条・「すべてのキリスト信者はキリストにおける新生のゆえに、尊厳性においても、行為においても**真に平等**であるから、みな、それぞれの固有の立場と任務において、キリストの体の建設に協働する。」
・「**教会は秘跡である**」・・・秘跡とは
見えない神の恵みを見える印をもって表す
（見えない）父なる神 = イエスとなる（見える）
（見えない）復活のイエス = 出会った人々は教会共同体となる（見える）
教会は「父の心 = イエスキリストの恵み」である聖霊に導かれ、この**社会に証しする = 福音宣教**

(2) 「準備文書」のポイントの言葉

- ①・**ともに旅をする教会**・(第二バチカン公会議のことば)
・教会はキリストの体に向かう**旅の途上**にあります。(私の教会からキリストの教会へ)

・社会において「神の民」として交わりに生きる教会は、聖霊の働きによって、さらに貧しく、「小さくされた人々の側」にたち、その方々に耳を傾け識別し、教会が自らをたえず福音化・刷新し、キリストの背たけにまで成長することを求め「ともに旅する教会」と自覚しています

②. シノドス的な教会

- ・シノドス的な教会とは「**交わり 参加**」という**教会の本質**を表す言葉です。洗礼・堅信の秘跡によって私たちはキリストの使命である「祭司職 預言職 王職」に招かれ 神の民として社会の福音化の能動的な奉仕者となるのです。「ともに旅をする」ことによって、多様なたまもの カリスマの人々との出会い、全ての人の善を追求し、その**交わりが 全人類の一致**のしるし 道具となることを願うのです。

(3) シノドスの 探求すべきテーマ別 10 の (質問) 要点. (*すべての質問は別紙にあります)

① 「旅の同伴」・教会でも社会でも、私たちは同じ道を並んで進んでいます。

- ・私たちとともに「旅をする」のは誰ですか
- ・「わたしたちの教会」というとき、誰がその一部でしょうか
- ・誰が私たちとともに旅をすることを望んでいるでしょうか (福音マーケット)
- ・また どういう人、グループが取り残されているでしょうか?

② 「聴くこと」・聞くことは最初の一步ですが、それには偏見のない、開かれた精神と心が必要です。

- ・誰に対して「耳を傾ける必要がある」でしょうか
- ・信徒 若者 女性・・・どのように耳を傾けてもらっているでしょうか。
- ・修道会 (男女) の奉獻はどのようにかかわっているでしょうか
- ・少数派 (マイノリティ) や見捨てられた人 排除された人の声に耳を傾ける場はあるか
- ・耳を傾けるに妨げとなる 偏見や差別 固定観念を認識していますか
- ・私たちの生活において社会的 文化的背景に対して、どのように耳を傾けていますか

(4) シノダリティ (交わり) の実践・神の民に意見を求め、深めるための道すじ

- ・福音を告げながら「ともに旅をする教会」は神の民の具体的な生活に根ざしています。その中でどのような経験を持ち、そこから何を学んでおられるかを問いかけます。

- a) ・この基本的な質問がどのような経験を思い起こさせるでしょうか
- b) ・これらの経験をより深く読み直してみる。 どのような喜びをもたらしたか。
 - ・どのような**困難や障害**に遭遇したか。 どのような傷が明るみに出たか。
 - ・ どのような洞察が得られたか。
- c) ・分かち合うべき**果実**を集めること。
 - ・これらの**経験**の中で、**聖霊の声**はどこで鳴り響いているか。

- ・聖霊はわたしたちに何を求めているか。
- ・確認すべき点、**変化の可能性**、踏むべき段階は何か。
- ・どこでコンセンサス（**合意・意見の一致**）を得られますか。
- ・わたしたちの部分教会には、今後の福音宣教のため**どのような道が開かれているか**

(5) 日本の教会の歩みから

① 第二バチカン公会議 (1962~1965)

- ・20世紀・・・大きな世界大戦・・・何もできなかった教会
(過去、教会は社会に立ち入らならない姿勢であった)
- ・教会の存在意義は何か?・・・社会の中の教会 教会生活・典礼の見直し
- ・教会とは・・・「神の民(交わり)」「秘跡としての教会(証し)」「旅する教会(刷新)」
- ・公会議の根本姿勢・・・対話の精神 キリスト中心 全員参加 多様性 地方教会

② 教皇 ヨハネパウロ2世の来日(1981)

- ・日本の教会・・・**第二バチカン公会議の精神への激励**・・・「平和アピール」

③ 日本の教会の基本方針と優先課題 (1984)

1. カトリック教会の一人一人が宣教者として信仰の喜びを伝え、救いの御業の協力者となる
2. 私たちは「小さな人々」と共に、全ての人を大切にする社会と文化の福音化の担い手に。

④ 優先課題

- ・「生涯養成コース」を行う・・・養成 → 意識の変化 → 組織の再考
- ・修道会 宣教会 諸施設との 協力体制を作る
- ・「福音宣教推進全国会議」に取り組む

⑤ 福音宣教推進全国会議 / NICE -1 (1987 ・ 京都)

- ・第二バチカン公会議の精神を日本に根付かせるため。
- ・課題・・・生活と信仰の遊離 社会と教会の遊離・・・(水と油の関係)
- ・テーマ「開かれた教会をめざして」・・・旅する教会
- ・これまでの信仰のあり方を見直した。
- ・掟や教義からではなく、イエスの慈しみの喜びの福音。
- ・目標・・・柱Ⅰ・・・「日本の社会とともに歩む教会」(現実)・・・対話・→交わり)
柱Ⅱ・・・「生活を通して育てられる信仰」(小さき人々 聴く→ 信仰)
柱Ⅲ・・・「福音宣教する小教区」(神の民・協力→ 宣教)

⑥ 阪神淡路大震災(1995) 東日本大震災(2011)

- ・キリストの望まれる教会への旅。全ての教区・修道会の交わりと協働。
- ・弱い立場に置かれた人々と共に「開かれた教会」を目指す。
- ・善意の人々(奉仕団体)との対話と連携